

環境報告書

Environmental Report 2012



TMDU
東京医科歯科大学

目 次

1. 学長からのメッセージ	2
基本理念・基本方針	2
2. 大 学 概 要	
職員・学生数	3
運営組織等	4
機構図	4
3. 環 境 負 荷 の 全 体 像	5
4. 環 境 マ ネ ジ メ ン ト	
環境配慮の取組の体制	6
環境目標・計画・実績	6
環境に関する規制への取組	7
環境に関する大学としての社会貢献	9
その他大学における環境に関する取組活動	11
5. 事業活動に伴う環境負荷	
エネルギー使用量	13
水資源使用量（上水）	14
排水量（下水）	14
大気排出量	14
廃棄物	15
実験廃液	16
6. 環境報告書の自己評価	17

多大な被害をもたらした未曾有の大震災から1年5ヶ月が経ちました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域の日も早い復興をお祈りいたします。

医療系大学である本学として、既に医師・歯科医師・看護師等を派遣いたしておりますが、さらなる手厚い救済活動が必要であることを認識し、最大限の努力を惜しまぬつもりでおります。

日本らしさを表に、日本復活の一助となるべく、一意専心するつもりでおります。



学長 大山 喬史

科学技術の発展に伴う産業活動の急速な拡大が自然や生態系に大きな影響を及ぼし、地球環境の汚染や破壊が深刻になっています。また、近年、世界各地で地球温暖化をはじめとする気候変動による異常気象が頻発し、多くの被害が報告されています。このように、地球環境問題は人類存続のために解決すべき極めて重大な課題の一つです。

これら大気汚染や近年の夏の異常な暑さを始めとする天候不順等は疾患構造の変化を引き起こしており、日々の医療現場においても我々医療人はことの深刻さを感じずにはいません。一刻も早い地球規模での対策が必要です。

本学は東京都心に立地し、大規模で高機能な大学病院及び研究施設を有しているため、地球環境問題や都市環境問題は避けて通れない課題です。加えて、昨年の大震災での原子力発電所の被災により、これまで以上のエネルギー対策が必要とされています。本学においても、様々な活動に支障を来さないよう配慮しつつ、教職員及び学生一体となって環境保全や省エネルギー対策に取り組んでまいります。

この環境報告書を通して、環境に対する本学の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

基本理念

地球環境問題等の解決のために、本学における教育、研究、診療などのあらゆる活動を通じて、環境保全と環境負荷の低減に努める。特に温室効果ガスの削減を推進する。

基本方針

- 教職員及び学生と協力して、省エネルギー、省資源、資源のリサイクル、グリーン購入の推進、廃棄物発生量の抑制及び化学物質の安全管理に努める。
- 環境に関する法令、条例及び協定等の遵守はもちろん、環境への取組を文書、又はホームページを通して関係する教職員及び学生に周知徹底し、基本方針や取組みについて外部に開示する。

2. 大学概要

職員・学生数

役職員数(平成23年5月1日現在)

* 職員数 1,941人

○役員数 ()内 非常勤内数

学長	理事	監事	小計
1	5	2(1)	8(1)

○職員数

教授	准教授	講師	助教	一般職	薬剤師等	看護師	小計
151	127	103	332	301	173	746	1,933

学生数(平成23年5月1日現在)

* 学生数 3,095人

○大学院学生数 1,409人

研究科	修士課程		博士課程				小計
	第1	第2	第1	第2	第3	第4	
医歯学総合研究科	69	65	219	228	216	305	1,102
研究科	博士(前期)過程		博士(後期)課程			小計	
	第1	第2	第1	第2	第3		
保健衛生学研究科	33	37	17	17	42		146
生命情報科学教育部	50	49	19	20	23		161

○学部学生数 1,405人

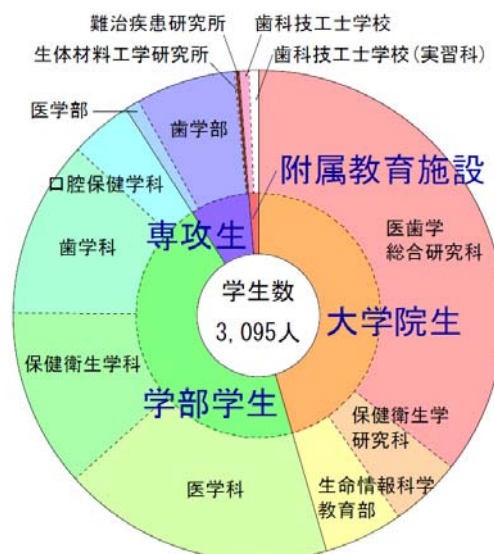
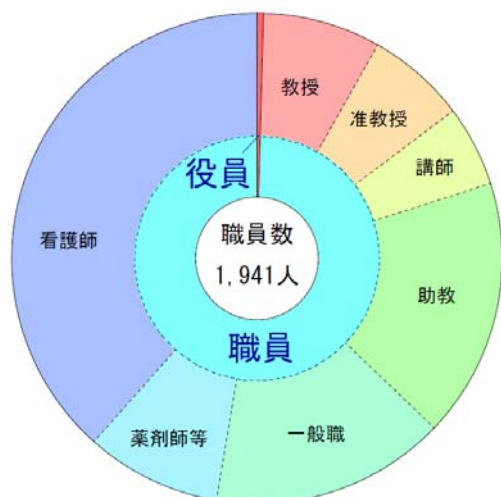
学部学科		第1	第2	第3	第4	第5	第6	小計
医学部	医学科	103	97	94	80	93	86	553
	保健衛生学科	98	89	90	88			365
歯学部	歯学科	53	61	56	57	70	63	360
	口腔保健学科	34	28	34	31			127

○専攻生数 242人

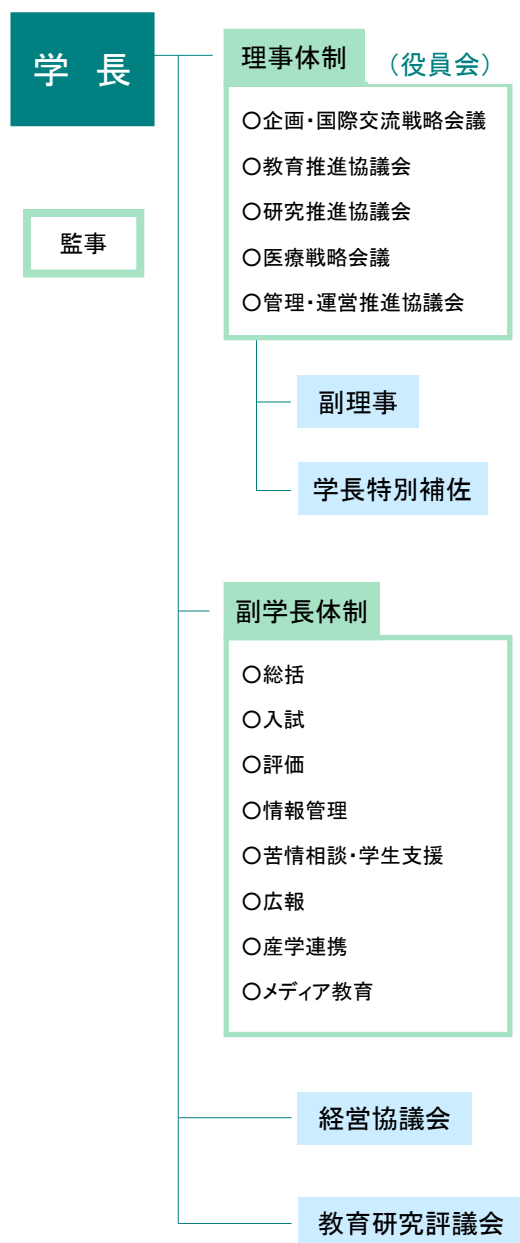
区分	小計
医学部	30
歯学部	202
生体材料工学研究所	4
難治疾患研究所	6

○附属教育施設生徒数 39人

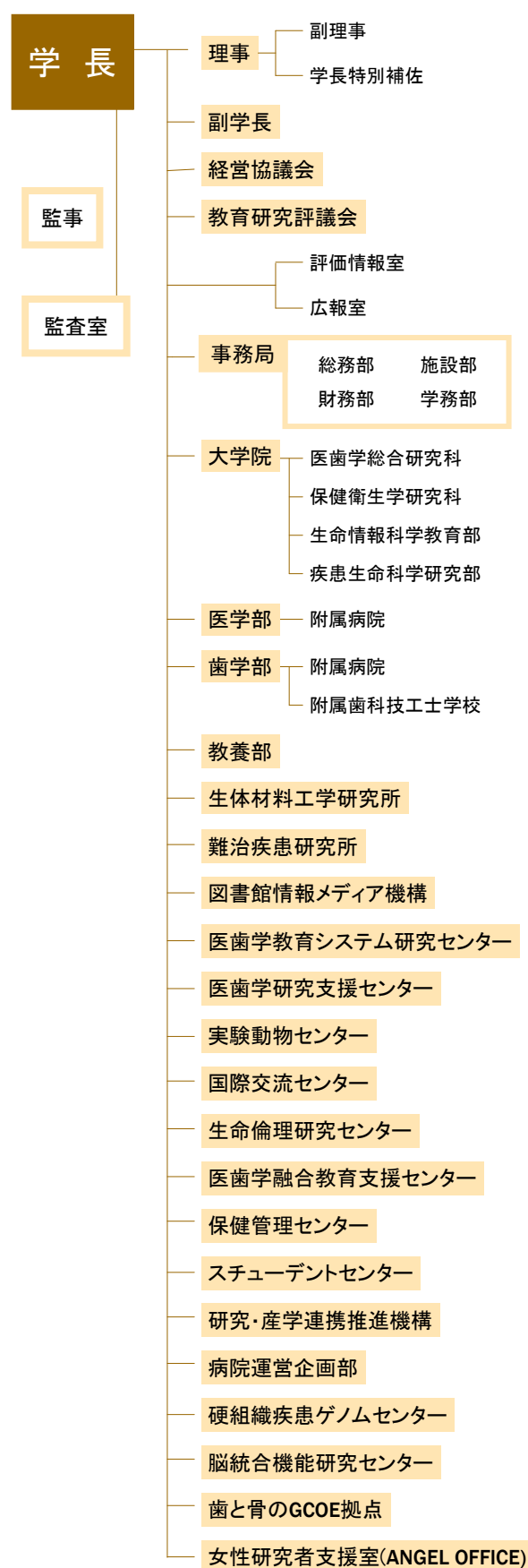
学校	第1	第2	小計
歯科技工士学校	0	20	20
歯科技工士学校(実習科)	9	10	19



運営組織等

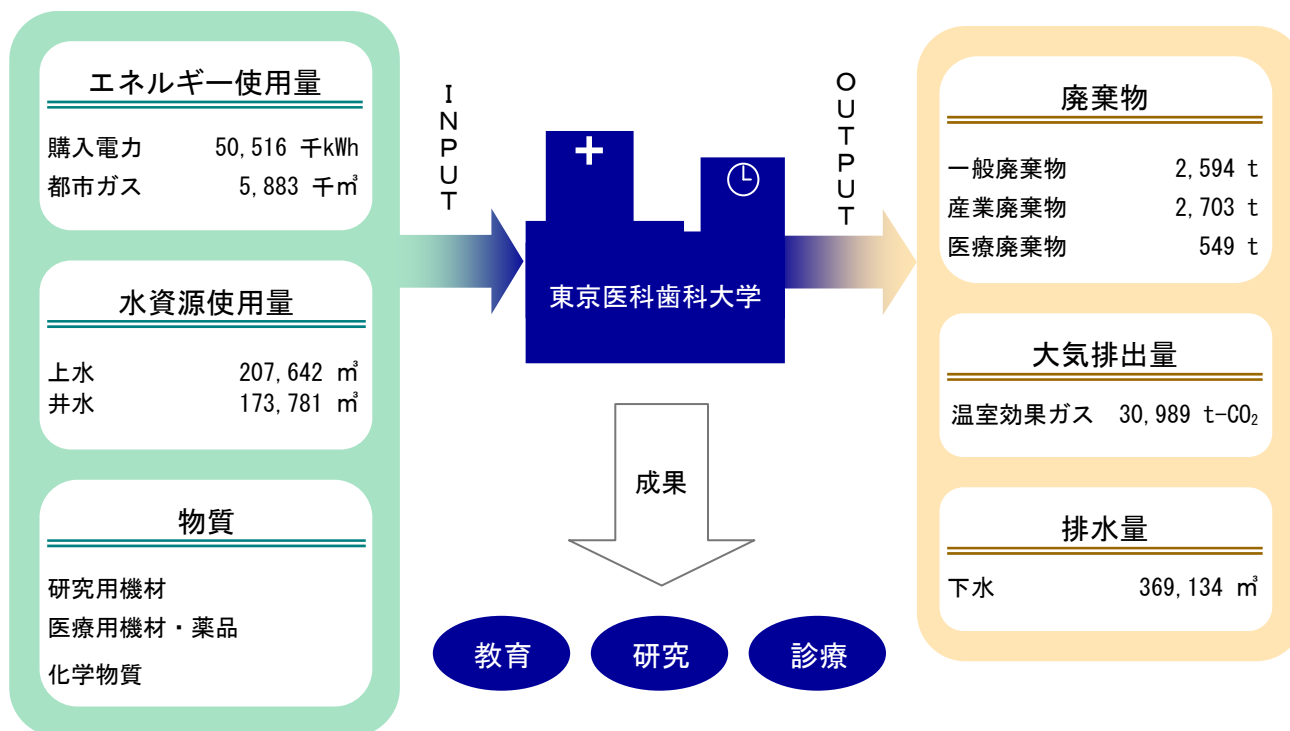


機構図



3. 環境負荷の全体像

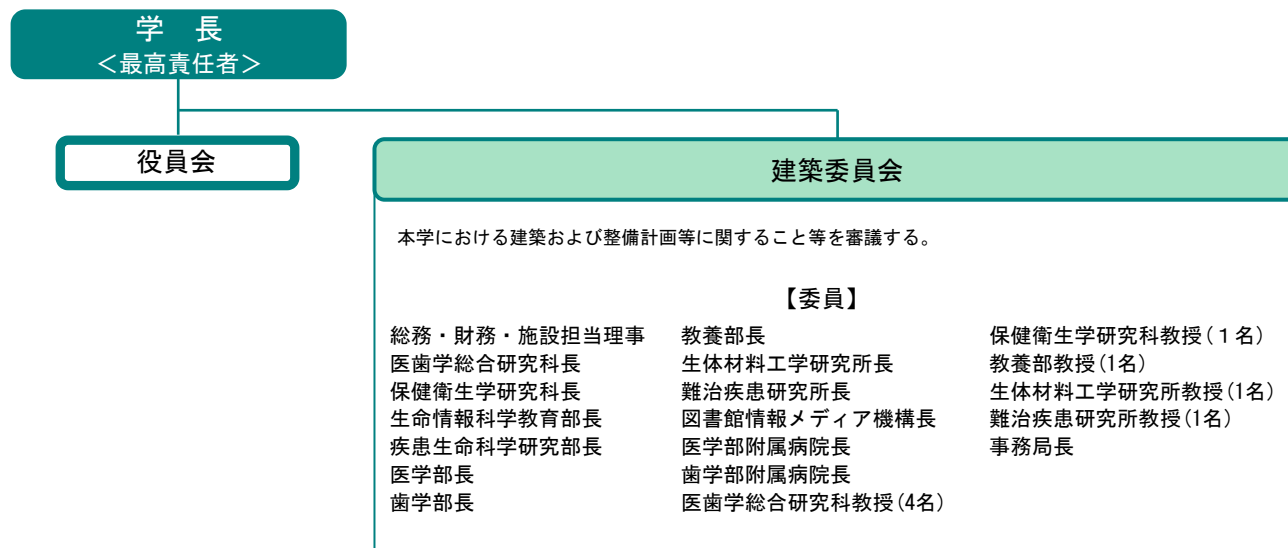
2011年度の資源の流入と外部への排出は下記ようになります。



4.

環境マネジメント

環境配慮の取組の体制



環境目標・計画・実績

目的	目 標	実 施 計 画	自己評価
エネルギーの抑制	電気使用量の削減	学内周知による節電の励行	○
		学内周知による冷暖房の適温設定	○
		送風機等のファンベルトを省エネタイプに更新	○
		照明器具を高効率型に更新	○
		空調機等を高効率型に更新	○
		エレベーターを高効率型に更新	○
	都市ガス使用量の削減	ボイラ等の空気比の適正管理	○
		蒸気式冷凍機を電気式高効率型に更新	○
	上水使用量の削減	学内周知による節水の励行	○
		自動水栓への改修	○
環境汚染の防止	温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガスの総基準排出量の把握等	○
	一般廃棄物の法律遵守	分別回収の徹底	○
	産業廃棄物の法律遵守	分別回収の徹底	○
	医療廃棄物の法律遵守	適正管理の徹底	○
	実験廃液の排出基準の遵守	実験廃液の回収を徹底	○

注) 自己評価は、実施計画の達成度を標記しています。(実施→○、複数年度に亘り実施→△、未実施→×)

環境に関する規制への取組

法規制等の遵守

本学の環境推進に適用される環境関連法規等は下記のとおりです。
また、過去1年間、法規制等の違反はありませんでした。

- ・省エネルギー法
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物特別措置法
- ・化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）
- ・建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル管法）
- ・下水道法
- ・グリーン購入法
- ・東京都環境確保条例
- ・千葉県環境基本条例
- ・千葉県環境保全条例

化学物質の適正管理

本学では、化学物質の環境への影響を考慮し、PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）及び東京都環境確保条例（都民の健康と安全を確保する環境に関する条例）等に基づき、法令等で定められた化学物質の適正な管理に努めています。

管理については、使用化学物質の種類、使用量、廃棄量等を把握しているほか、化学物質の管理に関する研修会を設けて教職員の知識の習得及びスキルの向上を図り、また、化学物質を安全に取り扱い、化学物質による健康障害を防止するため、各研究室にMSDS（製品安全データシート）、安全の手引きを整備し、特殊健康診断、作業環境測定等を実施しております。

PRTR法の第一種指定化学物質462物質及び東京都環境確保条例の適正管理化学物質58物質を対象に、大学での取扱量がPRTR法で年間1 t 以上、東京都環境確保条例で年間100kg以上の物質について、使用量等の報告義務が法令に基づいて課されており、報告先である国及び東京都に対して報告しています。

今後も化学物質の管理状況を正確に把握し続けるとともに、排出量の削減に向けて、取組みを進めていきます。

PCB廃棄物

本学では、絶縁油としてPCB（ポリ塩化ビフェニル）を使用した機器（コンデンサ、変圧器、安定器）を電力用、照明用に使用してきました。これらの機器に関しては、使用中のものを除き、全て厳重に保管しています。

PCB廃棄物の保管に関しては、鋼板製の堅牢な容器に機器の状態のまま入れ、密封しています。毎年、最低1回は、保管状況の確認を行っています。

法令に従って、形態、数量をすべて把握し、使用中のものについては関東東北産業保安監督部に、保管しているものについては東京都及び千葉県に報告しています。

■ 2011年度 化学物質の使用量、廃棄量、排出量（PRTR法及び都条例対象物質）

化学物質名	アセトニトリル	アセトン	イソプロピルアルコール	キシレン	クロロホルム	酢酸エチル	ジクロロメタン	ピリジン	ヘキサン	ホルムアルデヒド	メタノール
使用量(kg)	150	1,900	110	710	1,100	1,000	950	240	1,200	600	1,700
廃棄量(kg)	83	1,500	54	590	910	1,000	950	0	1,200	470	1,300
排出量(kg)	67	400	56	120	190	0	0	240	0	130	400

医療廃棄物について

医療廃棄物とは、「医療関係機関等の医療行為に伴って排出される廃棄物」の通称であり、正しくは「感染性廃棄物」と呼称し、「感染性廃棄物（医療廃棄物）」、「非感染性廃棄物（産業廃棄物）」及び「事業系一般廃棄物」に分別し排出されています。

さらに本学医学部附属病院では、病院機能評価委員会からの指導により、病院職員の感染防止、針刺し防止等の安全性確保のため、医療廃棄物収集箱を鋭利物・非鋭利物・針ボックスの分別収集を行っています。

また、医学部附属病院・歯学部附属病院では、新入職員研修時のオリエンテーション等により、医療廃棄物の分別を厳密に行うよう、啓発に努めています。

建築物における吹付アスベストの状況

吹付アスベストについては、平成17年度にすべての建物において実態調査を行い、平成17年度、平成18年度に全ての未処理の吹付アスベストについて処理（撤去及び囲い込み）を行っています。

平成23年度は22年度に引き続き旧3号館取壊しにおいて、囲い込み処理済みの吹付アスベストの撤去を行いました。

今後も改修工事の際に撤去を行う等、適切に管理を行っていきます。

グリーン購入・調達

本学では、グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）を遵守し、環境負荷低減に資する製品・サービスなどの調達を進めるとともに、毎年その状況の実績を、関係省庁に報告しています。

■ 特定調達品目調達率

分野	全調達量	特定調達品目 調達量	特定調達品目 調達率（％）
紙類	135,525kg	132,647kg	97.9
文具類	354,569個	353,951個	99.8
オフィス家具等	1,030台	1,026台	99.6
OA機器	34,990台	34,990台	100
家電製品	147台	147台	100
移動電話	14台	14台	100
エアコン・除湿機等	5台	5台	100
照明	1,524本	1,524本	100
制服・作業服	1,657着	555着	33.5
インテリ・寝装寝具	75枚	27枚	36.0
作業手袋	384組	384組	100
その他繊維製品	22個	22個	100
防災備蓄用品	3,104個	3,104個	100
役務	2件	2件	100



環境に関する大学としての社会貢献

環境問題に関連した研究開発等

○医歯学総合研究科 高野 健人 教授

健康都市プロジェクトの手法：

WHO健康都市研究協力センター ユニバーサルデザイン 2011；32：30-33.

健康都市とビル管理の可視化：ビルと環境 2011；135：4-8.

○教養部生物学 服部 淳彦 教授

共同研究者：早川 和一（金沢大学大学院自然科学研究科）

：鈴木 信雄（金沢大学環日本海域研究センター）

「重油に含まれる多環芳香族水素類の骨代謝に及ぼす影響—魚鱗の培養系による評価」

その他、本学は医歯学総合研究科に環境社会医歯学系専攻を擁し、医学的見地から環境へのアプローチを行っています。

中央環境審議会等での活動

本学から4名が中央環境審議会等で活動し、環境問題に対して積極的に社会貢献を行っています。

○吉澤 靖之 理事

東京労働局 地方じん肺診査医

○医歯学総合研究科 稲瀬 直彦 教授

中央環境審議会 石綿健康被害判定部会 石綿健康被害判定小委員会

「石綿（アスベスト）による健康被害の救済に係る医学的判定に関する審議」

○医歯学総合研究科 河原 和夫 教授

環境省総合環境政策局

「疫学研究に関する審査検討会」

○医歯学研究支援センター 笠間 健嗣 准教授

環境省環境調査研修所 講師

「平成23年度環境汚染有機化学物質（POP s 等）分析研修」

1. 環境パトロール

駿河台団地では、「御茶ノ水駅周辺地区生活環境美化・浄化推進連絡会会員」として月2回の環境合同パトロールに協力している他、千代田区生活環境条例に定める年2回の一斉清掃日には、構内周辺の清掃を町内会会員とともにしています。

(参考) 合同パトロールの内容

- ・参加者：地区連絡会会員、千代田区、神田警察署
- ・内 容：①放置自転車・バイクへの札貼り、違法駐車バイクのナンバー記録
②放置看板・のぼり旗撤去指導及び警告札貼付け(放置物件の記録)
③路上喫煙者指導、違法駐車指導、清掃など
- ・区の担当課：千代田区環境安全部防災課・環境・温暖化対策課・安全生活課



2. 歩行喫煙者等の禁止に関する啓発事業への協力

湯島団地のある文京湯島地区では、平成19年度より、湯島・本郷地区の町会等が立ち上げた「湯島・本郷地区路上喫煙禁止を推進する準備会」の趣旨に賛同し、準備会に加わり、定期的に会合にも参加して路上喫煙禁止の運動に携わってきました。

平成20年度には、この運動の一環として、聖橋付近におけるポケットティッシュの配布に協力しました。

平成21年4月には、「文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例」が施行されたことに伴い、本学は条例の趣旨に賛同するとともに、聖橋付近において3回にわたり、ポケットティッシュを配布して、条例の周知・啓発キャンペーンに協力し、平成22年度以降毎年度同キャンペーンに協力しています。



同キャンペーンに参加する本学職員（於：聖橋）



同キャンペーンに参加する本学職員（於：お茶の水橋）

その他大学における環境に関する取組活動

省エネルギー及び温室効果ガス排出削減対策

地球温暖化対策として、M&Dタワーでは南面の窓ガラスに日照調整フィルムを貼りました。これにより、夏季の空調負荷が低減され、電気使用量が削減できました。

湯島地区では、温室効果ガスの削減のための計画に基づき、高効率空調機への更新、既設照明器具取替(Hf化)、エレベーターのインバーター化など省エネ改修を実施しました。

その他、建物の修繕や改修工事の際、省エネタイプ機器等にできるだけ更新するよう心がけ実施しております。

更に、事務室においては夏季軽装期間を設け、エアコンの温度設定の目標を28℃とするポスターを掲示するなど消費電力の削減に取り組んでおります。



井水利用について

平成21年度に地震等の災害時にも病院機能を十分に発揮できるよう自前で水源を確保するとともに、経費削減を目的として井水利用の検討をし、昭和43年に設置され休止状態にあった井戸を再利用することとなりました。

平成22年度に既設井戸の補修工事や、ろ過装置の設置等を行い、平成23年4月より井水の利用を開始しています。

井水は東京都水道水と併せ飲料水として使用していますが、災害時には、特定機能病院・三次救急病院としての機能を発揮できるだけではなく、公的ライフライン復旧までの給水拠点として、地域住民に貢献することが出来ます。



放置自転車の撤去・対策

湯島団地内に駐輪している自転車・自動二輪車（原動機付き自転車含む、以下、「自転車等」という。）は、原則として本学関係者が使用しているものです。

しかし駐輪してある自転車等の中に、長期に亘って放置されているものが多数ありました。

構内環境を損なう要因の一つとなっているこれら自転車等の放置行為を除去するため、一定期間張り紙等で周知の上、所有者不明の自転車等を分別・撤去しました。

【平成23年度

放置自転車等の分別・撤去実績】

自転車：72台

自動二輪車：3台

エコキャップ運動の実施

本学では、社会貢献とボランティア意識の向上、環境問題への取組の一環としてエコキャップ運動に取り組んでいます。この活動はペットボトルキャップを回収しリサイクルメーカーに売却、その売却益をJCV（NPO法人世界子どもにワクチンを日本委員会）に寄付するというものです。

平成23年4月から平成24年2月までに226,400個のキャップを回収し、ポリオワクチンに換算して283人分をJCVへ寄付することができました。また同時に、このキャップがゴミとして焼却されていた場合に発生していた1,782kgのCO2の発生を防いだ計算になります。



喫煙防止対策について

本学では、喫煙が及ぼす健康への悪影響を排除し、本学の教職員及び学生等の健康確保を図るとともに快適な職場環境の形成を促進することを目的とした「国立大学法人東京医科歯科大学における喫煙対策に関する指針」を制定し、それに基づき、すべてのキャンパス及び附属施設において、指定する喫煙場所以外はすべて禁煙とし、喫煙と健康に関する知識、情報を提供するとともに、喫煙防止対策の実施に努めています。

環境美化活動

本学では、環境美化活動の一環として、湯島団地内外の道路・植込み等の清掃活動を実施しています。

平成23年度は創立記念日に清掃活動と併せて記念植樹を行い、キャンパスの環境整備に努めました。



5. 事業活動に伴う環境負荷

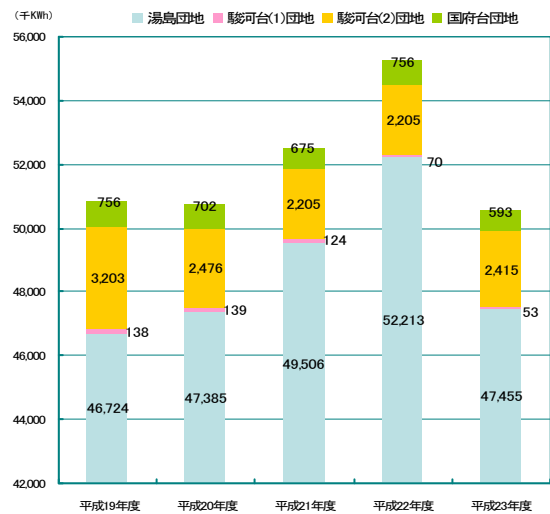
エネルギー使用量

研究・実験による実験機器の導入や診療患者数が増加するなか、高効率の各種機器の導入を進めています。

電気(千kWh)

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
団地計	50,821	50,703	52,510	55,737	50,516	△9.4%
湯島	46,724	47,385	49,506	52,213	47,455	△9.1%
駿河台(1)	138	139	124	70	53	△24.3%
駿河台(2)	3,203	2,476	2,205	2,698	2,415	△10.5%
国府台	756	702	675	756	593	△21.6%

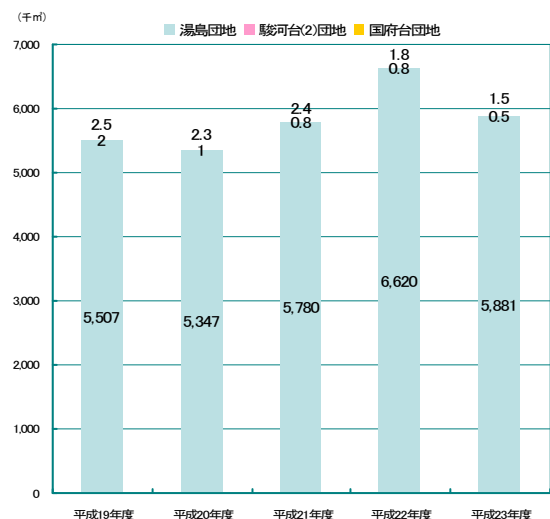
平成23年度は夏季の電力使用制限に準じた節電により電気使用量が減っていると考えられます。



都市ガス(千m³)

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
計	5,512	5,351	5,783	6,622	5,883	△11.2%
湯島	5,507	5,347	5,780	6,620	5,881	△11.2%
駿河台(2)	2.0	1.0	0.8	0.4	0.5	25.0%
国府台	2.5	2.3	2.4	1.8	1.5	△16.7%

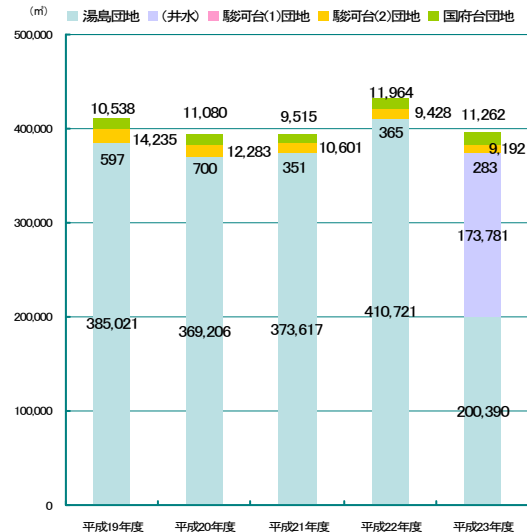
平成22年度は猛暑によりガスによる冷房機使用が増えガス使用量が多かったことと、平成23年度は電力使用制限に準じた節電に伴い、ピークカット用ガス式発電機を運転しなかったことから、使用量が減っていると考えられます。



水資源使用量(上水(m³))

年度 団地名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
計	410,391	393,269	394,084	432,478	381,423	△13.0%
湯島	385,021	369,206	373,617	410,721	186,905	△12.2%
井水					173,781	
駿河台(1)	597	700	351	365	283	△22.5%
駿河台(2)	14,235	12,283	10,601	9,428	9,192	△2.5%
国府台	10,538	11,080	9,515	11,964	11,262	△5.9%

平成22年度は猛暑により上水使用量が多かったため、平成23年度は平成22年度に比べて使用量が減っていると考えられます。

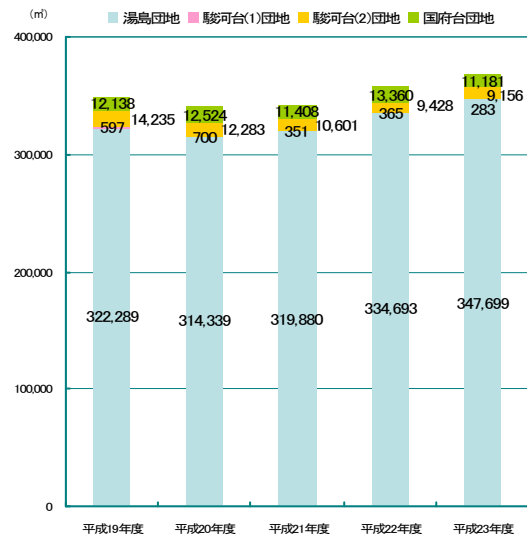


排水量(下水(m³))

年度 団地名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
計	349,259	339,846	342,240	357,846	369,134	1.7%
湯島	322,289	314,339	319,880	334,693	348,514	4.1%
駿河台(1)	597	700	351	365	283	△22.5%
駿河台(2)	14,235	12,283	10,601	9,428	9,156	△2.9%
国府台	12,138	12,524	11,408	13,360	11,181	△16.3%

※下水については下水道法に則り、公共下水道への排水の水質を測定し記録しています。また、報告書を東京都及び千葉県市川市に提出しています。

湯島団地については、平成23年度より井水利用を開始し、飲用に処理する時に発生する洗浄水を下水に流しているため、排水量が増えていると考えられます。



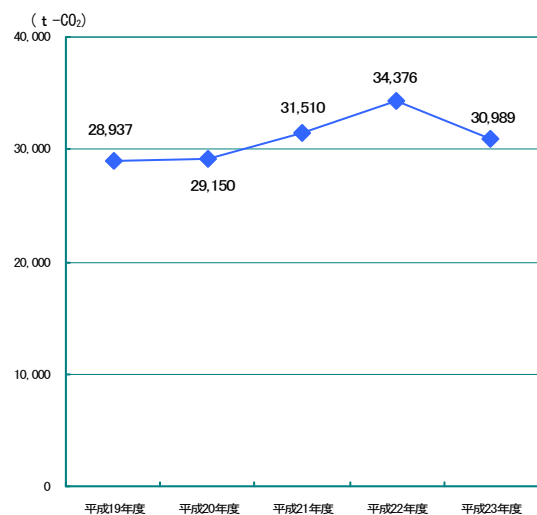
大気排出量

温室効果ガス(t-CO₂) (湯島団地のみ)

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
計	28,937	29,150	31,510	34,376	30,989	△9.9%

※温室効果ガスの排出量は「東京都地球温暖化対策指針」に基づき算出しております。

夏期の電力使用制限に準じた節電により、大気排出量は減少していると考えられます。



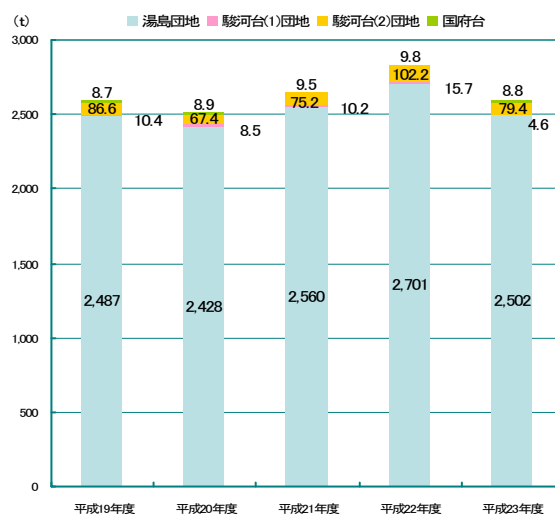
廃棄物

一般廃棄物 (t)

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
計	2,592.8	2,512.3	2,655.0	2,828.7	2,594.4	△8.3%
湯島	2,487.0	2,427.5	2,560.1	2,701.0	2,501.6	△7.4%
駿河台(1)	10.4	8.5	10.2	15.7	4.6	△70.7%
駿河台(2)	86.6	67.4	75.2	102.2	79.4	△22.3%
国府台	8.7	8.9	9.5	9.8	8.8	△10.2%

駿河台(1)団地については、平成22年度に事務部が湯島団地に移動するにあたり、書類等を整理したために一般廃棄物が増えましたが、平成23年度は跡地の使用を全て開始できなかったため、減少していると考えられます。

駿河台(2)団地については、平成22年度に研究室の一部が湯島団地に移動するにあたり、書類等を整理したために一般廃棄物が増えましたが、平成23年度は平成21年度以前と大差ない量となりました。

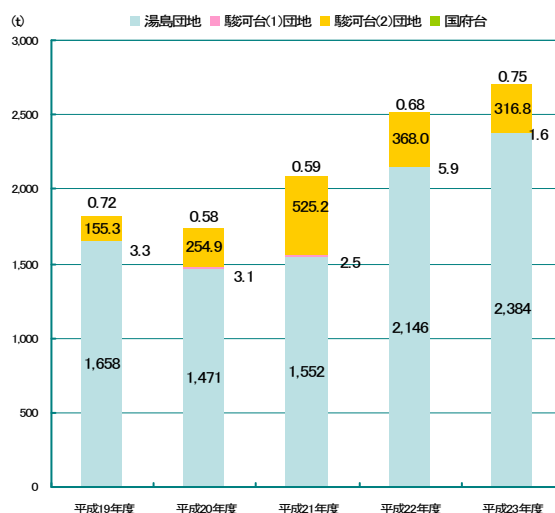


産業廃棄物 (t)

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
計	1,817.4	1,729.9	2,080.0	2,520.4	2,703.4	7.3%
湯島	1,658.1	1,471.3	1,551.7	2,145.8	2,384.2	11.1%
駿河台(1)	3.3	3.1	2.5	5.9	1.6	△72.9%
駿河台(2)	155.3	254.9	525.2	368.0	316.8	△13.9%
国府台	0.72	0.58	0.59	0.68	0.75	10.3%

湯島団地については、附属病院の外来患者が増えているため、産業廃棄物が増えていると考えられます。

駿河台(1)団地については、平成22年度に事務部が湯島団地に移動するにあたり、書類等を整理したために産業廃棄物が増えましたが、平成23年度は跡地の使用を全て開始できなかったため、減少していると考えられます。

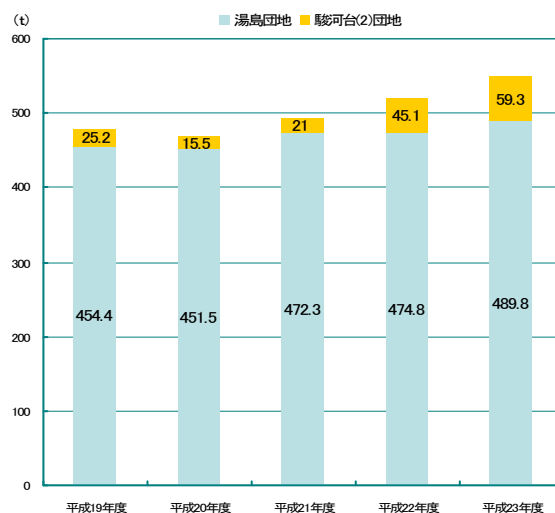


医療廃棄物 (t)

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
計	479.5	467.0	493.3	519.9	549.1	5.6%
湯島	454.4	451.5	472.3	474.8	489.8	3.2%
駿河台(2)	25.2	15.5	21.0	45.1	59.3	31.5%

※本学で発生した医療廃棄物は、業務従事者が所定の専用容器に投棄し、委託業者が回収し適正に処分しています。

駿河台(2)団地については、動物系の実験が増えているため、医療廃棄物が増えていると考えられます。

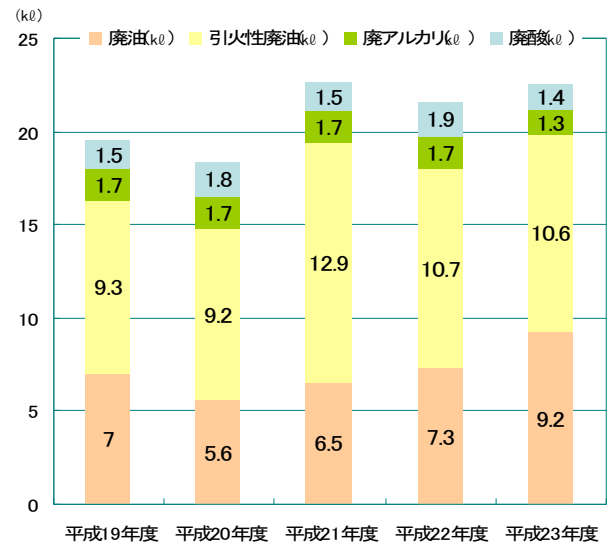


実験廃液

各研究室から排出される実験系廃棄物である廃液については、原則毎月1回、排出量が多い場合は随時回収し、専門業者に処分を依頼しています。

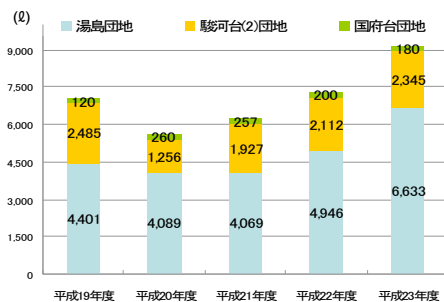
下表は、廃液の処分量を産業廃棄物のマニフェスト伝票の項目に沿って記載しています(ただし、排出量1kℓ未満の項目は記載省略)。

年度 廃液(kℓ)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
合計	19.5	18.3	22.6	21.5	22.4	4.2%
廃油	7.0	5.6	6.5	7.3	9.2	26.0%
引火性廃油	9.3	9.2	12.9	10.7	10.6	△0.9%
廃アルカリ	1.7	1.7	1.7	1.7	1.3	△23.5%
廃酸	1.5	1.8	1.5	1.9	1.4	△26.3%



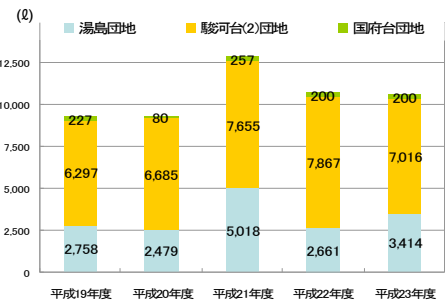
廃油(ℓ)

年度 団地名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
団地計	7,006	5,605	6,509	7,258	9,158	26.2%
湯島	4,401	4,089	4,069	4,946	6,633	34.1%
駿河台(2)	2,485	1,256	1,927	2,112	2,345	11.0%
国府台	120	260	257	200	180	△10.0%



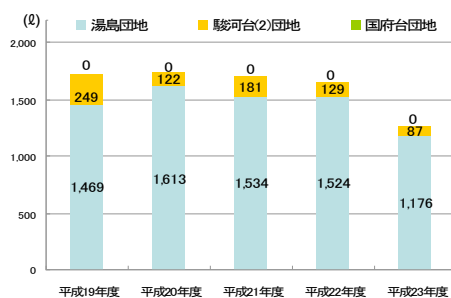
引火性廃油(ℓ)

年度 団地名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
団地計	9,282	9,244	12,930	10,728	10,630	△0.9%
湯島	2,758	2,479	5,018	2,661	3,414	28.3%
駿河台(2)	6,297	6,685	7,655	7,867	7,016	△10.8%
国府台	227	80	257	200	200	±0%



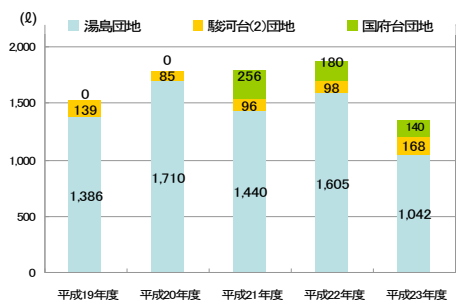
廃アルカリ(ℓ)

年度 団地名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
団地計	1,718	1,735	1,715	1,653	1,263	△23.6%
湯島	1,469	1,613	1,534	1,524	1,176	△22.8%
駿河台(2)	249	122	181	129	87	△32.6%
国府台	0	0	0	0	0	±0%



廃酸(ℓ)

年度 団地名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年度比
団地計	1,525	1,795	1,536	1,883	1,350	△23.3%
湯島	1,386	1,710	1,440	1,605	1,042	△35.1%
駿河台(2)	139	85	96	98	168	71.4%
国府台	0	0	256	180	140	△22.2%



記載事項等の対応状況

環境報告書が環境配慮促進法第8条に基づく記載事項等に従って作成されているかどうか自己評価を行った結果、下表の通り問題となる事項はありませんでした。

環境配慮促進法第8条に基づく記載事項等	本書該当項目	記載状況	頁数
1.事業活動に係る環境配慮の方針等	学長からのメッセージ	○	2
	基本理念・基本方針	○	2
2.主要な事業内容、対象とする事業年度等	対象組織・対象期間	○	17
	大学概要	○	4
3.事業活動に係る環境配慮の計画	環境目標・計画・実績	○	6
4.事業活動に係る環境配慮の取組の体制等	環境配慮の取組の体制	○	6
5.事業活動に係る環境配慮の取組の状況等	事業活動に伴う環境負荷	○	13
6.製品等に係る環境配慮の情報	(該当なし)	—	—
7.その他	環境に関する規制への取組	○	7

○対象組織

国立大学法人東京医科歯科大学
湯島団地・駿河台団地・国府台団地

○対象期間

2011年4月1日から2012年3月31日

○参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

○発行年月

2012年9月

○次回発行予定

2013年9月

○お問合せ先

東京医科歯科大学財務施設部施設企画課
〒113-8510

東京都文京区湯島1-5-45

Tel : 03-5803-5059

Fax : 03-5803-0103

E-mail : shisetsu01.adm@cmn.tmd.ac.jp

○HPアドレス

<http://www.tmd.ac.jp/>